

北日本新聞

# 愛のひと声運動

今日もまた  
あなたの元気に  
会いたくて。



## 新聞受けから発信されるSOSをキャッチ

新聞受けに新聞が数日分たまっていたら、配達スタッフが販売店主を通して各地域の民生委員へ連絡。民生委員、自治会長や社会福祉協議会、場合により警察・消防などの協力のもと、病人やけが人の早期発見をめざします。地域の安心や安全を見まもり、あたたかく明るいふるさとづくりの一翼を担っていきます。

### ○「愛のひと声運動」の流れ○

新聞受けに新聞が数日分たまっていて「おかしいな？」と思ったら販売店主へ報告。



販売店主は、その家に直接電話するなど十分確認した後、地区の民生委員児童委員へ連絡。



販売店主と民生委員児童委員が協力して、その家へ確認にうかがいます。

※万一緊急の場合などは警察や消防へ連絡します。







## 趣 旨

一人暮らし高齢者が年々増える中、同居家庭でも日中、家族が仕事で不在になり、孤独になるケースも目立っています。

こうした方々との“おしゃべり”を通して安否・体調を確認し、孤独感も解消してもらいます。会話内容を報告することで離れて暮らすご家族に安心を提供します。

## サービス内容

体 調 確 認	週1・2回約 <b>10分間</b> のお電話 (回数は選択。料金は変わりません)
会 話 報 告	利用者との会話要旨をご家族に <b>ファクス等でご報告</b>
緊 急 連 絡	<b>新聞</b> がたまっていれば <b>ご家族に連絡</b> (会話中の緊急時には駆け付け)

## ご家族への報告書(実例)

《要旨》

- ・2コールほどで出られました。今日は電話の日だと、30分ほど前から電話の近くで待っていただいていたとの事です。
- ・朝晩は冷えるので、軽いお布団を一枚増やしたそうです。
- ・「一人暮らしをしているより、やはり何処かに入った方がいいのかな、だけど、入ってしまったら又出たくなるし」と、今日は午前中からそのようなことを考えていらっやったとのことでしたが、は〜とコールで話して、少し気分が晴れたとおっしゃっていただきました。
- ・大阪にお住まいの息子さんが来られ、皆さんでお食事したことが楽しかったと教えていただきました。
- ・体調はよいとの事でしたので、私どもも安心いたしました。
- ・来週の金曜日、午後3時にお電話のお約束をしました。

## 見守り電話サービス「は〜とコ〜ル」報告書

2016年5月20日  
北日本新聞販売協同組合

■■■■美 様

電話会話日時 2016年5月20日15時3分~15時18分  
■■■■子様との会話内容を報告させていただきます。

《要旨》

- ・コール3回程でお母様が出られました。
- ・お約束の日時について一瞬お忘れになっていたようでしたが、すぐに思い出していただきました。
- ・今日は暑い日なので、室内でも熱中症になることがあるとお話をしたところ、室内でゴロゴロしないように気をつけているとのことでした。
- ・毎週火曜と木曜、だいたい9時から3時ぐらいまで日帰り入浴に通い始められたとのことです。
- ・一緒に通っている周りの皆さんにはとてもよくしていただいているとのお話でした。普段は口にされないものも含め、日帰り入浴先でのお昼は残さず食べることができると話していらっやいました。余興もあって、行くのが楽しみとお話でした。
- ・節々に、■■■■様のことを話され、仲の良いご孫子が私にも伝わってきました。
- ・来週の3時にお電話のお約束をしました。
- ・は〜とコ〜ルでのお話について、また楽しみが1つ増えるとおっしゃって頂けました。

## 利用者の声など

### は〜とコール注目

入善町 西村 三夫  
(シルバー人材会員 76歳)

北日本新聞社と北日本新聞販売店会「北日本会」は、今春から一人暮らしや家族が日中、不在になる65歳以上の高齢者向けに、見守り電話サービス「は〜とコール」をスタートさせる。

昨今、孤独死、ひきこもり生活困窮など、地域社会が抱える諸問題は複雑であり、発見しづらい。人口減少と高齢化の進展に伴い、見守りや

絆が希薄化し、困りごとを抱える世帯を見つけて出すことは難しい。「は〜とコール」は、電話で話し相手になることで孤独感を解消してもらい、体調維持を確認。離れて暮らす家族に会話の内容を報告し、安心を提供する取り組みだ。家族や親族らと有料で契約する。

新聞配達ネットワークを駆使し、高齢者らを見守る「愛のひと声運動」と連携し、希望する契約者には新聞受けに新聞がたまっていたら無料のメール報告する。「は〜とコール」に注目したい。

## 読者のひろば

### 見守り電話の効果

射水市 木田 郁子  
(主婦 51歳)

実家は父母の2人暮らしです。時折、電話をしますが、身内のだらだらとした会話はかりでした。社会との接点を持つためにも、他人との会話が大事だと思っていた矢先、北日本新聞の見守り電話「は〜とコール」を知り、週1回、母に電話してもらうことにしました。

他人との電話のやりとりは、身内の「あうんの呼吸」が通じません。思いを分かってもらうために、母は

話す内容や言葉などを一生懸命に考えたようです。

最初は、電話がかかる時間を忘れて外出したこともありましたが、話が伝わる喜びを感じて、生活に張りが出てきたようです。

畑仕事や犬の散歩にも積極的になってきました。3カ月たって、電話でのおしゃべりが、どれほどの力を持つのか、よく分かりました。

高齢者が家に閉じこもらず、声を発信するチャンスが「は〜とコール」にあります。高齢者は受け身という固定観念を捨て、積極的に言葉を送ってほしいと思います。